

Topic 1 お互いを認め合い、みんなで楽しむルールのある遊び

A児は、ドッジボールのルールは分かっていて、友達と一緒に遊びたい気持ちはあるが、負けることが受け入れ難い。B児はルールをしっかりと守りたい。いろいろな友達がいることを受け入れて、みんなで楽しく遊ぶためにはどうしたらよいか。

1

B児
ルールを
しっかりと
守りたい



2

A児
負けた
くない!



3



C児 A児のことを全て受け入れている

気持ちを切り替えている時間を見守る

POINT

一人一人のために必要な
援助の見極め

POINT

保育者がそれぞれの幼児への
関わり方のモデルとなり、居心地
のよい雰囲気や空間をつくる

POINT

心の動きを見取り、適当だと思ふタイミングで
その子に合った効果的な言葉をかける
最後は「楽しかった」で終わるように

●研究アドバイザーから 東洋大学 福祉社会デザイン学部 子ども支援学科 教授 内田 千春 氏

複数の視点からその子について考えることで、一見困った行動のように見えることの中にあるその子らしさを 『良さ』として捉えることができるようです。そんな保育者がそばにすることで、子どもは「ありのままの自分でいいんだ」と心から思えます。その子自身がおもしろいと思ひ没頭している遊びは、周りの友達にとっても魅力的なものになります。『育ち合いは、直接関わっている時だけに起きるのではなく、少し離れてお互いを意識し合っている時、場を共有しているだけの時にも起き得る』という先生方の発見が、『ねらいをもちながらも決めすぎない』という柔軟さにつながったと思っています。

自分とは違う思いをもち、行動する友達を受け入れるには、子どもたちがお互いについて「こんなすごいところがある」「そういう気持ちになることもあるよね」「できないこともあるよね」という捉え方ができるとよさそうです。とはいえ、居心地の良い場所は『ただ楽しくいられる場所』というだけではありません。その集団のメンバーであるという所属意識をもつこと、そこで行われていることに参加し貢献していると感じられる要素が必要です。『どの子にも居心地の良い場所は、一人一人が参加しやすい、互いの思いを大切に合える場所である』という本研究の結論に心から納得しました。



Topic 2 一人一人の良さが生きている仲間と楽しむごっこ遊び

毎日誘い合い、一緒に過ごす3人組。お店屋さんごっこをするが、それぞれに好きなように遊んでいるように見えることもある。

A児 行動力がある

B児 製作でいろいろな素材に触れている

C児 イメージが豊か



POINT 得意を生かす

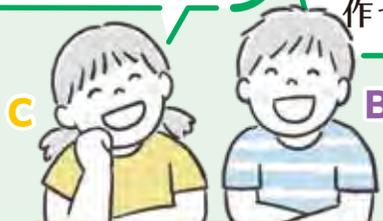
POINT 友達の中で認められる

POINT 関係性を見取り、援助を継続

POINT 一人一人のやりたいことを取り入れた遊びは充実する

良い考えだね！
私は、看板を作るね

チョコレート色の
画用紙見つけた！
作ってみよう♪



おいそうなメニューがたくさんあって、
お店が大人気だね。3人で力を合わせて
お店のお仕事しないかね



お店の宣伝してくるね
オープンしましたよ～！

みんなのステキが輝く幼稚園

- どの子にとっても、やりたいことがあって、安心して夢中になって遊べる環境を保障することが大切。
- 見た目や保育者の都合ではなく、その子の思いを受け止め、どのようにしたら実現できるのかを考える園のスタンスが大切。そうすることで、自分たちのやりたいことが実現した充実感を味わうことができる。

一人一人に寄り添う

- 一人一人の良さをしっかり見取り、「こういう時には〇〇さんに任せるとバッチリだよ」のような保育者の働きかけが日常となる雰囲気をつくる。やりたいことを丁寧に支えることが、友達との遊びの充実につながる。
- 保育者はその子のありのままを受け止め、『何が心配？』『不安？』『本当は何がしたいのか？』を適切に見取ることが大切である。それを保育者が、言葉やまなざし、行動で表していくことで、周りの子どもたちが友達の思いに気づき、思いやる気持ちを育むことができる。